



# たん と キ ャ ャ ャ あ お き 通 信

Vol.22



たん と キ ャ ャ ャ あ お き は、お陰様で8月に開所5周年を迎える事ができました。そして、法人としては4月に20周年を迎える事ができました。

さらにさらに、前法人からだ4月で25周年を迎える事ができました。

一重に、みなさまの温かい応援のおかげです。

これからも、青木村周辺の障がいをお持ちの方々やその家族が笑顔でこの土地で暮らしていけるように尽力していきますので、これからも、応援よろしくお祈りします。

たん と キ ャ ャ ャ あ お き スタッフ一同

## コラム ～ 重大な犯罪が起きるといつもドキドキします ～

犯罪に小さいも大きいもないのですが…。先日、長野駅でとてもつらい事件が起きてしまいました。数日後に犯人が捕まったのですが、その時も捕まった瞬間にちょっとだけですが間違った情報が流れました。その内容は「犯人は発達障がいがあって、パニック障がいがあった」というものです。今回は、それで収まったのでまだよかったです。

今回の様な事件が起きると必ず報道でも取り上げられるのが、犯人の精神科通院歴と精神鑑定の結果です。なぜかという、法律で決まっていることなので仕方ないことなのかもしれませんが、犯人が障がい者の場合、責任能力があるかないかがポイントになり、責任能力がない可能性がある場合、罪を犯していてもそれを犯罪として問う事ができなくなる場合もあり、罪が軽くなる場合があります。だからと言って、どんな罪を犯してもいいわけではありませんが。

ただ、本題はそこではなく、報道で犯人が障がい者だったとわかった時が私は怖いのです。

TVなどで報道される場合、その人の症状、診断歴などが正しく報道されることは少なく、ほとんどの場合、目立つ部分だけが取り上げられる事があります。

その場合、その犯人だけでなく仮に犯人が「発達障がい通院歴がありました。」と報道されると、みなさんの身の回りには発達障がいの方々と同じような事をするのではないかと感知がいされてしまうことがあったり、また、判断能力の低い子どもが耳にすると軽い気持ちでからかうような事が毎回、どこかで起きていることを耳にします。

結果的に、ありもしない差別がまた生まれてしまう事が実はいつも起きているのです。

それでも、最近はそのまですらないことは多いですが、ちょっと気になっている近所の○○さんは大丈夫？とか、ちょっと警戒しようなんて話はめずらしくありません。

実は、私達「たん と」も同じような事を受けたことがあります。今は、たん と 本部の周囲には新しく引っ越した家族が沢山住んでいますが、まだ、周りにそんなに家がなかった頃、ほぼ最初にその土地で建てたのは、私達でしたが、数年後に近くに建設する予定の建築会社を通して、ある申し入れがあったことがあります。「これから建築する方が、うちには小さい子がいるので、何をされるか不安で障がい者は怖いので昼間は鍵を閉めて外に出られないようにするか、引っ越してください」と…。その後、話し合いをしてお互いの不安や不満を話、現在は無事に理解してもらえ同じ地域で問題なく事業を継続していますし、当然ですが、一度もトラブルを起こしたことはありませんが悲しくなったことがありました。これを読んでいただいたみなさんは、正しい理解をしていただき暖かい心で付き合ってください。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たん と キ ャ ャ ャ あ お き まで、ご相談いただければ対応いたします。

## たん と キ ャ ャ ャ あ お き (NPO 法人たん と。)

### TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん と



## もう大丈夫って思っていたのにまたひどくなった？

ある発達障がいの家族から相談された事があります。

「小さい頃、療育や周囲の理解、協力のお陰で学校の友だちと仲良く過ごしていたんだけど、最近、また少しずつだけど、気にならなかった特徴的な行動が増えたり、気持ちの切り替えが難しくなったり・・・。  
正直、何年も気にすることなかったから、障がいは治ったと思っていました。。。」

以前にも (Vol. 17号)、ADHD (注意欠如・多動性障がい) の特徴は、歳を重ねて成長いくことで周囲の同世代の友だちとの差がなくなってきて目立たなくなるという話をしたと思います。  
その時も障がいが治るということではなく、上手に振る舞えるようになってくるということをお伝えしました。



それと同じような事ではあるのですが、周囲の環境や理解により問題なく毎日過ごしていたのだけど、ある時期から少しずつ気になる行動が増え、収まってくる行動とは逆の現象が起きることがあります。

実は、同じような事が小さい頃にも一度起きているのです。小さい子、特に未就学の保育園ぐらいの頃、家族だけの中で過ごしている環境から、外部の友だちや環境を体験していく事で刺激を受け、発達障がいのあるお子さんは少しずつ特性が影響して、環境への不適應やこだわり行動などが出てくる事があります。この時は、もともとある特徴 (特性) が成長していく事で、それまではボヤッとしていた特徴が、ハッキリとした形で現れてくることで気づくということなのです。そこから、療育トレーニングや周囲の協力・理解を得ながら目立たなくなってくるのですが、その時に全ての特徴がハッキリ現れて来ないものもいくつかあります。

例えば、学習障がい (LD) がわかりやすいかもしれませんね。学習障がいは文字を読む、書く、計算をするなどについて苦手さがあるという障がいなので、保育園などでは文字を読む、書く、計算をするなどの行為がほぼないために、気付かない事がありますし家族もできなくてもまだ年齢的にもできなくて当たり前なので「そのうちできるようになるだろう」と思い気づかない事があります。

学校に入学してしばらくしてから学習が難しくなってくることでハッキリ現れてくる事があります。

それと同じように、小さい頃は経験する機会がないために現れなかった特徴というのは成長してくることでハッキリするため最初から苦手さがあったのにわからなかった可能性は十分あります。

また、一度気にならなくなった事でも刺激の受け方や感じ方が成長とともに変化することで改めて現れてくる可能性があります。そんな時、周囲は「治ったと思っていたのに、また・・・」と勘違いしてしまうことがあります。

しかし、その状況は 新たに現れたのではなく、何らかの影響がありももとの特徴が現れたという状況だということを理解していただくと、その後の対応がスムーズになるのではないかと思います。

もし、みなさんの家族や知り合いの中で、同じ様に以前はあって目立たなくなっていたけど、また？と思うような事があった時は、一度、周囲の状況、環境、人との関わりなどを一度確認してみてください。何かわかることがあるかもしれません。

もし、そうなった時どうするのか？ これは、小さい頃に療育や以前使っていた方法に、一旦、戻るとい事がとても大切になります。



「今はスケジュールなんて使ってなかった」→もう一度、一日のスケジュールを「見える化」してみましょう。

「順番がわからなくなる」→一度、手順をわかるように整理してみましょう。

昔 (小さい頃)、体験したことがあるのであれば、きっとすぐに取り戻す事ができます。そこから、また落ち着いて自分や周囲が安心する方法を見つけいきましょう。

実は、このような事が繰り返し起きる可能性があるのが、いわゆる発達障がいのみなさんです。

小さい頃に、しっかりとトレーニングし身につけておくことが、実はとても大切なことだと、いつも感じています。繰り返し起きることがあっても、早い段階で兆候を見つけ対応していくことが大切です。